



廃炉が進められている「ミューレベルク原発」 =12日午前

核のごみの最終処分場選定は、原発を利用する国にとって避けられない重要課題だ。スイスでは1972年に実施主体となる「放射性廃棄物管理共同組合(NAGRA、ナグラ)」が設立され、地下研究施設「グリンゼル試験場」はスイス中部、アルプス地方の入り口「マインゲン」の街から車で約30分の山中に位置し、40年超の歴史がある。

入り口は水力発電に使用されるダム湖の斜面の近くで、施設は標高1700メートル。超の結晶岩中にある。枝のように分かれる全長1.7キロの坑道を進みながら、NAGRA職員がスイスの最終処分方法や日本との共同研究などを説明し、警備隊が分について具体的な情報提供をしてほしいと語った。

原町高2年の佐藤陽那太さん(17)は「南相馬市」は「日本でも、もっと最終処分について具体的な情報提供をしてほしい」と語った。スイスの電力供給構成(2022年時)は約51%が水力、約37%が原子力、現在は4基の原発が稼働している。一行は12日午前、首都ベルン西側近郊に位置し、スイス初の廃炉作業が進められているミューレベルク原発を見学した。

同原発は1972年に1基のみで運転を開始したが、2号機建設を計画したが、東京電力福島第1原発事故で中止され、稼働中の1基も廃炉となった。19年に運転終了、23年に使用済み燃料の取り出しが終了し、35年までの解体完了を予定している。

# 最終処分 地下で研究

## 本県高校生ら視察団



グリンゼル試験場の坑道内で、NAGRA職員から試験の成果などを聞く高校生たち(11日)

「スイス・ベルン」をば支社長・国分利也)県内などの高校生15人が高レベル放射性廃棄物(核のごみ)の最終処分について学ぶ「ふくしまハイスクールアカデミー2025」の一行は11、12の両日、スイスの首都ベルン郊外にある放射性廃棄物の処分方法を研究する「グリンゼル試験場」や廃炉が進む「ミューレベルク原発」を視察し、原子力政策に理解を深めた。

# スイスの試験場 坑道1キロ

Q スイスの核のごみの最終処分 原発や連邦政府などで行く「放射性廃棄物管理共同組合」(NAGRA、ナグラ)が実施主体として地層処分を計画。場所選定は日本のように公募ではなく、科学的根拠や地質学的安全性を基準に候補を段階的に絞り込む。2022年にチューリッヒ北部のドイツ国境付近の「北部レゲレン」を最終候補地として提案。昨年11月に連邦政府に認可を申請した。31年ごろには場所が確定し、60年代の操業開始が見込まれる。



▲ 8月13日 福島民友新聞掲載

### 記事から知り得たこと

Blank lined area for writing notes from the article.

### 疑問に思ったこと、調べてみたいこと

Blank lined area for writing questions or things to investigate.

### 調べてわかったこと、考えたこと

Blank lined area for writing findings and thoughts after research.

各国の取り組みを知って、核ごみの最終処分場が早期に完成するとともに脱原発に向けた道筋が見えてくることを期待したいです。

